

**令和 7 年度 第 1 回生野区区政会議
まちの未来部会**

- 1 開催日時
令和 7 年 5 月 27 日（火） 19 時 00 分～
- 2 開催場所
生野区役所 6 階 大会議室
- 3 出席者
(区政会議委員) 7 名
平島委員、中村（寛）委員、須郷委員、倉本委員、島本委員、廣川委員、山納委員
(生野区役所) 7 名
筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、木村地域まちづくり課長、竹中まちづくり推進担当課長、森区政推進担当課長、金田企画総務課長代理
- 4 委員に意見を求めた事項
 - (1) 令和 6 年度生野区の取組み振り返りについて
 - (2) 区政に関する意見交換会の開催について
 - (3) その他
 - ・資料 1 令和 6 年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）
 - ・資料 2 「区民わがこと SDGs」の推進にかかる区ごとの SDGs ゴールの選定
 - ・資料 3 外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討結果（概要）
 - ・【参考資料 1】 当日スライド資料
 - ・【参考資料 2】 事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応
 - ・【参考資料 3】 主なご意見等と区の考え方、対応
(令和 6 年度 第 2 回生野区区政会議)
 - ・【参考資料 4】 令和 7 年 生野区区政会議 委員改選について

5 会議内容

○森区政推進担当課長

皆さま大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第1回生野区区政会議まちの未来部会を開催させていただきます。

本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきましてありがとうございます。私は事務局の生野区役所企画総務課の森と申します。よろしくお願いいたします。着座にて失礼させていただきます。

それでは最初に、本日ご出席の委員の皆さまをご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際はお手数ですが、ご起立をお願いいたします。

平島委員でございます。

○平島委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

中村委員でございます。

○中村（寛）委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

須郷委員でございます。

○須郷委員

こんばんは。よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

倉本委員でございます。

○倉本委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

島本委員でございます。

○島本委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

廣川委員でございます。

○廣川委員

よろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

山納委員でございます。

○山納委員

よろしくお願いします。

○森区政推進担当課長

なお、栗津委員、塚本委員につきましては本日所用でご欠席です。

本日の会議は、委員定数9名に対し7名のご出席がありますので、定数の2分の1以上の出席で有効に成立していることをご報告させていただきます。

そして本日の傍聴者は1名となっております。

あと区役所の方ですが、4月1日に人事異動がありメンバーが少し変わっておりますのでご紹介させていただきます。

○竹中まちづくり推進担当課長

皆さまこんばんは。4月から生野区役所まちづくり推進担当課長を拝命いたしました竹中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

事務局の方も1名変わっておりますのでご紹介させていただきます。

○金田企画総務課長代理

皆さんこんばんは。生野区役所企画総務課長代理を拝命いたしました金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それでは区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席いただいた委員の方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局におきまして会議録を作成し、後日、区のホームページなどで公開させていただくほか、会議の様子を収録いたしまして、後日YouTubeにて配信し、どなたでもご覧いただけるような形にしていまいりますので録音・撮影につきましてご了承のほどよろしくお願いいたします。

さて、まちの未来部会では、主にまちの魅力や地域活性化等の分野について、令和6年度の生野区の取組を振り返り、次年度の取組に繋げていくため、委員の皆さまにご意見やご議論をいただきたいと考えております。本日の会議でいただきましたご意見等は、後日開催されます全体会の場で報告いたしまして、全ての委員の皆さまに共有いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、本日の資料についてご説明いたします。「令和7年度第1回生野区政会議まちの未来部会次第」をご覧ください。

まず資料1「令和6年度生野区運営方針振り返り（全体会・各部会共通）」という事前にお送りしている資料です。資料2「『区民わがことSDGs』の推進におけるゴールの選定」についてです。資料3「外国人住民との共生社会実現に向けた調査・政策検討結果（概要）」という資料です。次に参考資料1として、後にスクリーンに投影しますスライドを印刷した資料です。参考資料2「事前にいた

だいたご質問等と区の考え方、対応」です。参考資料3「主なご意見等と区の考え方、対応」。こちらは前回1月に開催させていただいた全体会のものです。参考資料4「令和7年生野区区政会議委員改選について」という資料です。最後に次第には書いておりませんが、区政会議まちの未来部会に関するアンケート用紙をお配りしております。お手数ではございますが、お帰りの際にご記入いただき、お出口で回収させていただきます。資料の方がお揃いではない方がおられましたら事務局の方でご用意させていただきます。よろしいでしょうか。

本日の流れについてですが、議事1では、資料1の生野区の運営方針振り返り、事前にいただいたご質問等に対する区の考え及び本日のテーマによる意見交換を行っていただきたいと思います。議事2では、区政に関する意見交換会の開催について、議事3 その他としまして、「区民わがこと SDGs」のゴール選定と、外国人住民との共生社会実現に向けた調査・検討結果についての報告をさせていただきます、最後に参考資料4の区政会議委員改選についてのご依頼をさせていただきますと思います。

本日も活発な意見交換のほど、よろしくお願いいたします。それではここからの議事進行については廣川部会長にお願いしたいと思います。廣川部会長よろしくお願いいたします。

○廣川委員

部会長の廣川です。

ただいまから令和7年度第1回まちの未来部会を開催します。区政会議は、地域でまちづくり活動を実際に進めている私達が、行政とともに生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って積極的なご発言をお願いできればと思います。

それでは、開催にあたりまして、筋原区長からご挨拶をお願いします。

○筋原生野区長

皆さんこんばんは。生野区長の筋原です。本日はお忙しい中、お仕事・ご家庭のご用事がある中で、生野区区政会議まちの未来部会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。区政会議は条例に基づき開催するもので、区における施策・事業について区民の皆さんから意見・評価をいただき、立案の段階から意見を把握して適宜これを反映するとともに、その実績と成果の評価にかかる意見をお伺いすることを目的としております。中でも本日のまちの未来部会のテーマは、まちの魅力や地域活性化等の分野で、生野区の「暮らしても遊んでも働いても面白い」という魅力あるまちづくりをめざした取組の分野となっております。本日は令和6年度の取組を振り返り、ご説明させていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただき、より良い区政に繋げていきたいと思っております。

ので、本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

○廣川委員

ありがとうございました。それでは早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に意見交換を進めていただけるよう、ここからは学識委員の山納委員に会議の進行をお願いしたいと思います。それでは山納委員、よろしくお願いいたします。

○山納委員

山納です。よろしくお願いいたします。1時間ちょっとでしょうか。8時半ゴールです。話し合いをしていきたいと思いますが、まず会議の次第に沿いまして、議事1、令和6年度の生野区の取組み振り返りについて区役所の方よりご説明をお願いいたします。

○金田企画総務課長代理

企画総務課の金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

それでは、令和6年度の生野区の取組についてご説明いたします。前方のスクリーンかお手元の参考資料1をご覧ください。

はじめに生野区運営方針とは何かということについて簡単にご説明させていただきます。生野区運営方針とは、区における「施策の選択と集中」の全体像を示す方針として、毎年度策定するものであり、生野区将来ビジョンに向けた毎年度のアクションプランです。生野区のめざす将来像や施策展開の方向性などを示したものが生野区将来ビジョンであり、それに向け毎年度のアクションプランとして策定するのが生野区運営方針となります。

それではまちの未来部会の分野についてご説明いたします。

詳しい取組内容については、事前に送付した資料1に記載しておりますので、今回は取組結果を中心にご紹介します。まず経営課題2として、「にぎわいというどり豊かな魅力のあるまち」です。魅力的な人・富・場が集積して循環し、その流れがまた新しい産業を創出している状態を、概ね10～20年間で念頭にめざすべき将来像と設定しております。

次にめざす成果及び戦略2-1「リノベーションまちづくり」として、概ね3～5年を念頭にめざす状態として、様々な業種が新たに創業され、好循環している状態としました。具体的な取組としては、万博を契機にしたまちの活性化、「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」プロモーション事業等を実施し、各分野の専門家や地域で活躍する住民同士をつなぐネットワークづくりや連携強化のイベントを実施しました。また、今年度も引き続きプロモーション事業を実施し、万博を契機に様々な方を生野区へ迎え入れるように取り組んでおります。

そしてこれまでの取組におけるめざす状態を数値化したアウトカム指標とし

て、生野区内の地価公示価格の上昇をめざすと設定した結果、それぞれの価格上昇において達成となっております。

次にめざす成果及び戦略 2-2「生野区シティプロモーション」として、めざす状態を「子育て世代に選ばれ、若者が活躍でき、区民が誇りに思えるまちとなっている状態」としました。具体的な取組として、「わがまち意識の浸透」として、自主的に活動している区民や団体等を幅広く知ってもらうことや、『生野の魅力』を『世界の魅力』に」として、子育て層や若年層等に知名度や好感度が上がる魅力情報を発信するなどしました。アウトカム指標として2項目設定し、まちの魅力PRや情報発信等の回数を20回以上、そして若年層の人口増をめざしました。結果として2項目とも指標達成となっております。

続きまして、経営課題4として、「まちづくり協議会による自律的な地域運営の促進」です。めざすべき将来像を、安心・安全なまちづくりの取組や地域コミュニティづくりなど地域特性に即した課題解決を自律的に進められている状態としました。具体的な取組としては、課題などの話し合いを進める会議の開催支援等を通じて、様々な活動主体と地域の連携促進を行いました。アウトカム指標としては、地域活動協議会の構成団体が自律的に課題解決に向けて進められていると思う割合を90%以上とし、令和6年度は達成となっております。

以上が、令和6年度の生野区運営方針の振り返りとなります。

続きまして、事前にいただいたご質問等と区の考え方、対応について説明させていただきます。スライドはありませんので、参考資料2をご覧ください。くらしの安全・安心部会の長谷川委員から、交通事故の対策、生野警察署の跡地に関するご質問をいただいております。

一つ目の交通事故対策についてです。自転車マナー啓発運動を行っているが、信号無視等の違反が広く、重大多発交差点として上六、谷九、阿倍野近鉄前交差点などが挙げられているが、生野の交差点でも事故多発地域等抑止力に繋がる方面はないかとのことのご意見です。これに対する区の考え方、対応ですが、大阪府警本部の抑止対策といたしまして、大池橋交差点から田島4丁目交差点、桃谷中学校前から大池橋交差点を「自転車指導啓発重点地区及び路線」として選定し、街頭啓発活動や交通指導取締りを強化しております。警察と連携した街頭啓発の実施や区ホームページなどでマナーを呼びかけ、携帯電話使用等や酒気帯運転等における自転車の交通安全や交通ルールについても周知に努めております。

二つ目の生野警察署の跡地についてですが、生野警察署の跡地はどうなるかとのことのご質問です。それに対する区の考え方、対応ですが、生野警察署の土地に関しては担当している本市契約管財局が所管しており、生野警察署移転後の跡地についても、本市契約管財局により売却に向けた手続きを行います。区としても、有効活動できるように契約管財局と連携して検討を行ってまいります。

裏面に移りまして、こどもの未来部会の足立委員から、「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」についてと、「子育てにやさしく、教育のつよいまち」についてご質問いただいております。

まず一つ目、学校再編整備における跡地活用の実例について説明して欲しいとのご質問です。区の考え方、対応ですが、「いくのコーライズパーク」を皮切りに、ワン・ワールド・インターナショナルスクール大阪、アブロードインターナショナルスクール大阪校、大阪自動車整備専門学校でそれぞれ跡地活用が始まっております。いずれの事業者においても、学校跡地が防災・地域コミュニティの拠点として、引き続き地域活動や災害時の避難所としての利用を確保しつつ、事業者独自の学校跡地を核としたまちづくりに寄与する活用としては、グラウンド等を活用した食に関するイベント、地域の子どもたちや住民が参加できるスポーツ・文化教室、英語を学べるサタデー・サマースクール等を実施しているところです。

二つ目は、「子育てにやさしく、教育のつよいまち」について、資料「学校教育環境」の数値の割合が高い要因について、学校内外での多様な学びの機会の充実を図るとは、また、特色ある学校の取組への支援とはどのようなことか。また、生野区がめざす「子ども像」、子どもたちの身につけたい「生きる力」とはどのようなものかとのご質問をいただいております。ご質問に対する区の考え方、対応ですが、数値の割合が高い要因は明らかではありませんが、生野区としては、様々な家庭環境で育つ子どもたちがいることを踏まえて、自ら学習する機会を提供しており、また子どもたちが自己を見つめ、将来とのつながりを見通しながら生き方を選択していけるよう、「性・生教育」「キャリア教育」などの充実に取り組んでいます。区が行う各学校の特色ある教育の支援としては、「生きるチカラまなびサポート事業」や「学び支援事業」などを行っています。生野区としては、自ら課題を発見し、解決していくことができるよう、育んでいきたいと考えています。また、各学校では、地域と連携・協働しながら学校教育を進めています。社会科の授業等において、身近な地域の様子について学習しており、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚は養われていくものと考えています。

事前にいただいた質問に対する回答は以上となります。

最後に、前方スライドもしくは参考資料1の9ページをご覧ください。

令和6年度からテーマを設定し、意見交換を行っております。引き続き今年度もテーマを設定し、皆さまのご意見をお伺いしたいと思います。

本日のテーマですが、先ほどの運営方針にもありましたが、生野区は、にぎわいといろどり豊かな魅力のあるまちをめざしています。生野区を盛り上げるためにも、わがまち意識の浸透が必要であると考えています。そのためにも地域で

様々な行事が行われていますが、さらに地域行事等を盛り上げるためにはどのような方法が有効なのか、皆さまのご意見を伺いたと思います。実現の可否を問わず自由にご意見いただければと考えております。

事務局の説明は以上になります。

○山納委員

区役所の方から説明いただきましたが、まず意見交換を始める前に事務局からの説明についてのご質問などがありましたら、この場で共有いただけたらと思います。いかがでしょうか。

僕からいいですか。

前の部会・全体会の時に伺っていたような話だと思いますが、先ほどの説明の中でも「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」というものがあり、万博を機に生野区を盛り上げていこうという話がありました。

万博が始まりましたが、実際に盛り上がっているのかどうかをぜひ伺ってみたいというのが1点。

もう一つが、プロモーションに関して、ジョーブログさんと連携をして、これから発信していくとの話があったかと思います。ジョーブログさんの情報発信はどんな感じになっているのか質問してもよろしいでしょうか。

○筋原生野区長

区長の筋原です。

まず「EXPO いくのヒートアッププロジェクト」ですが、令和6年度についてはマンスリーヒートアッププロジェクト 100 として、地域を盛り上げたいという方に集まっていいただいて 100 個のプロジェクトを立ち上げましょうということで、実際に 100 以上のプロジェクトを実施することができました。

ものづくり企業の方、飲食をやっておられる方、地域の方がたくさん入っておられるので、この繋がり・ネットワークを大切にしたいと思っていて、その中から、ヒートアッププロジェクトでは、桃谷商店街を中心に万博にちなんだメニューを作っていこうという「ももパクッ」というイベントを開催され、これで飲食店の繋がり、それから、万博にちなんだ夢のお菓子・駄菓子をテーマにした子どもたちに参加してもらいイベントが開催され、駄菓子屋さんを見学して、夢の駄菓子を考えるということをしてもらいました。これは廣川委員がリノベーションをした会場で実施したのですが、非常に盛り上がったような次第です。こういう中から、ものづくり企業、飲食業、地域などが垣根を越えたというか、いろいろな繋がりできて、神社でマルシェをするという取組であるとか、あるいはものづくり企業さんがいろいろな方を集めてフェスをする「DENKEN FESTA」など、自主的な企画も始まりました。そういう形で非常に生野区の熱量も上がってきたなというのは実感しています。

万博が始まって、ものづくり企業7社が集まって、ものづくりの技術を結集して作った金属製の提灯にマガジンの情報量を詰め込んだ「提 ZINE (ちょうじん)」という名前の大きな提灯を作って、それを万博の EXPO メッセ「WASSE (ワッセ)」という会場で行われた大阪府内 43 市町村の祭典の中で5月に展示しました。他の出展は市・町という単位で、区から出展したのは生野区だけでした。またゼロからそういうものを作り上げていた出展も生野区だけでしたので非常に話題にもなり、非常に良い場所で展示をしていただきました。

また、「EXPO 酒場」という全国で開催されている取組があるのですが、生野区も1年目のヒートアッププロジェクトの連携企画で、事業者が生野区の「EXPO 酒場」を開催していました。その「EXPO 酒場」を開催した各市町村が万博会場集まり、神輿を作ってフェスをするという企画があり、そのヒートアッププロジェクトでできたネットワークのメンバーが参加して、神輿や生野区の「いくみん熊手」とかをいっぱい作って練り歩きました。私も神輿に乗らせていただきましたが、非常に盛り上がりました。これからも、ものづくり企業がいくつも万博に出展して、引き続き万博の中でのいろんな活動をしていくというような動きに繋がっているという状況です。

ジョーブログについては、YouTube チャンネルの本編で、もう4回生野区の内容で発信しました。生野区の紹介、それから生野区振興・親善・観光大使に就任してもらいましたので、それをジョーくんのルーツでもある濟州島の知事に報告しに行く企画であるとか、そういうのもやり、セカンドチャンネルを合わせると、もう10回ぐらい発信しています。初回の発信だけでも64万人の閲覧、4回だけで140万回を超えるぐらいの閲覧は出ておりまして、多分どのメディアよりも強力な発信になっていると思っています。その中ではいろいろな飲食店の紹介やものづくりの活動もしており、また今、鳥人間コンテストに生野区のものづくり企業で参加して、ジョー君を飛ばすという企画も進んでいるところです。

これからも継続して生野区での企画がたくさん出て、全国・全世界に発信していけると思っています。

○山納委員

伺ってよかったです。知りませんでした。

他にまだ質問があれば、時間があると思いますがいかがでしょうか。

なければ、次に行きます。

事務局の方で示していただきましたが、「地域行事等を盛り上げるためにはどのような方法が有効か」というテーマで、今日は主に意見交換をするというのがありました。今から1時間ぐらい時間があるので、2回ぐらい喋る時間がやってくるかなと思っています。

ぜひ皆さんには、まず、この地域行事等を盛り上げるためにはどのような方法

が有効かということを喋っていただけたらと思っています。それ以外に、せっかくこの場に集まったので、「話し合っておきたい」「言っておきたい」ことがあれば、併せてこの1時間で話し合っていきたいと思います。

ということで、ここから皆さんにマイクが回る番です。いかがでしょうか。地域行事等を盛り上げるためにはどのような方法が有効か。この地域行事というのは何を指しているのか、皆さんの中で少しずつイメージが違ってしまうので、「私にとっての地域行事というのはこれだ」みたいなことも含めて共有いただけるといいかと思います。須郷さんいかがですか。

○須郷委員

こんばんは、須郷です。今日お話しできたらと思ったのは、林寺が取り組んでいるイベントで比較的若い方々が参加して盛り上がっているものがあるのですが、林寺で一番大きなイベントで、夏に行われている林寺盆踊り大会というものです。始まったきっかけは林寺小学校50周年記念の時に、「何かやろうよ」となって1回盆踊りをやったそうなんです。そこから10年、20年、何もなくて、「やっぱりやろうよ」となったみたいです。準備から本番、後片付けまでって実は大変なんですね。地域活動をやっていて一番感じるのは高齢化が進んできているということなんです、その高い年齢の方々が本当によく頑張ってくれたと思うんです。なので、うまい具合に世代交代ができない形ができてしまったのかなという気がするんですが、ここにきて、やっぱりお年を召されて引退される方もいるし、亡くなられる方もいるというような状況になってきています。スムーズな世代交代ができて、うまく繋がりができれば、地域活動というのはいい形でいけるようになると思うんですが。

先ほど言いかけた、盆踊り大会を開催するにあたって「盆踊り実行委員会」というのが、2015（平成27）年度に発足したんです。それは現梶田連長がずっとやりたいと思っていたことなんですね。「いつまでも町会長やら女性部長やら、年を取った者がこんなに大変な準備とかをやってられない」「何とか若い人たちに加わってもらおう」と言いながらもなかなか実現できなくて、ずっと機会あるごとに何とかその若い人たちに入ってもらおうと梶田連長が下準備をされてきて、ある年にとにかく若い人たちにやってもらおうということで、「盆踊り実行委員会」を立ち上げられたんです。そのときの初代委員長が私だったのですが、その時の資料を見ると、「次世代の参画を促し、若いフレッシュな視線と行動力で地域の活性化を図る。」「林寺まちづくり協議会を母体とした盆踊り実行委員会の発足を提案する。」ということがいろいろと細かく書いてありました。「地域の方々が集い、コミュニケーションのできる場が少なくなっている。地域での昔ながらの祭事は地域住民の老若男女が集うことにより、子どもたちにとって地域の決まりごとやルールを学び取る絶好の機会だ。普段顔を合わせることのな

い住民の出会う機会の提供もできる。心を一つに共通の目標に向かい、団結することは連帯感の強化に繋がり、活気のあるまち、安全・安心のまちづくりのために強力な機動力となり得る。」というような感じで、住みたいまち林寺、住んで良かったまち林寺というのを何とか実現しようという思いを込めて、若い人たちが中心となった盆踊り実行委員会が発足して、それがこれまでずっと続いてきたんです。筋原区長も毎年顔を出してくださっていますが、「林寺さんは若い人たちが中心になって動いていいですね」とか、いろいろな方から言っていたりするのも、それがずっと続いてきているからなんだと思っています。

ただ、順調に來たかという、いろいろなことがあったのも事実なんです。だから、物事を進めていくというのは、様々な考え方の人がいるし、思いを一つにしようと言っても、反対意見も出るみたいなこともあって、私がとにかく心がけたのは、いろいろな意見が出るんですが、「意見は会議で出してくれ」ということです。会議の場以外で、飲みに行つてあーだこうだ言つたり、好きなもの同士集まつてこうしようあーしようやつて言うのは、何のための会議なのかという思いがありました。

○山納委員

場外戦はするなということですね。

○須郷委員

なので、とにかく私が心がけたのは、まず会議をするときに、20 数名の全員の都合がいい日なんてなかなかないので、3 日ほど候補日を挙げて一番出席者が多い日で開催するとか、会議をしたら必ず議事録で「1 回目にはこういうことが決まりました」「2 回目はこういうことが決まりました」と記録を残して、「そんなこと言つてない」とかを言わせないために、そういう基本的なことをきちんとやるということをしました。また、仕事や家庭の事情があつてなかなか参加できない人たちには、例えば、今日の会議でも7時から始まるから7時に來るのが本来ですが、でも「仕事があつてちょっと遅れます」「家庭のことでちょっと無理です」という時でも、遅れるから來ないのではなくていいと思うんです。例えば始まる前に「こんばんは」つて言つて、「すいません。今から仕事なんです。」とかでもいいので顔だけでも出してくれとか、途中だけ來て抜けたり、「やつと仕事が終わりました」といつて最後だけ顔を出すつていうのもいいから、とにかく顔を出してほしいということをお願いしました。だから、始めから終わるまでいる委員はそんなにたくさんいないけど、どこかではみんなが顔を揃えるんだつていうのをやれたのかなと思っています。

盆踊り実行委員会ですが、若手だけではできないんです。やっぱり町会長さんや女性部長さんや皆さんのお世話にならないといけない。例えば、実際に動くのは盆踊り実行委員会だけど、女性部長さんが來て、暑い中冷たいものや冷たいタ

オルを用意するとかってという関わり方とか、実行委員会だけがやるんじゃないくて、みんなでとにかくやるっていうことができたかなと。そういうのが脈々と受け継がれて今に至っている気がしています。

盆踊りは毎年8月第1土曜日に開催されているんですが、その盆踊り実行委員会が今はいろいろな活動をするので、活動委員会という名前に変わったんですけど、私が初代委員長をやって、2、3人目で途中私もまた復帰することがあったりして、今一番新しい5人目の委員長さんがやられているんですけど、それぞれの個性を生かした、いい活動ができてるんじゃないかなと思っています。

○山納委員

皆さんから何か質問などないですか。私が一番疑問なのは、どうやって若い人が最初から参加するようになったんですか。

○須郷委員

なかなか難しかったんですけど、まずやったのは、林寺にある9つの町会から若手を推薦していただきました。なので、最初、推薦されて来られた方々は「何するんや」という感じでしたが、こういう歴史があって、こういうことをしてって、今私たちに期待がかかっているから、みんなで協力して頑張っていこうやって感じでスタートした記憶があります。

○山納委員

どうやって盛り上げていったというか、乗せていったのですか。

○須郷委員

委員長の情熱でしょうか。常に熱く語らせていただきました。

○山納委員

ありがとうございます。

地域行事等を盛り上げるためにどのような方法が有効かということで、林寺ではこのようにされているというお話をいただきました。

皆さんにも喋っていただければと思いますが、この並びでマイクを回していいでしょうか。中村委員にもお願いできますか。

○中村（寛）委員

こんばんは。地域行事等を盛り上げるためにはどのような方法が有効かという話し合いのテーマをいただいております、というふうにお話をしようか悩んだんですけども、まず地域行事っていうのは、まちづくり協議会であったり、各連合での行事のことを言っているのでしょうか。

○山納委員

ということで喋っていただいて大丈夫です。

○中村（寛）委員

ということでいいんですよ。

参考資料1の8ページに、まちづくり協議会の自主的な地域運営の促進というところがあるんですけども、私は田島地域から来させていただいております。私は「いくのの日」というので活動をさせてもらってところで、先ほどもちょっと話がありましたヒートアッププロジェクトの方には少しだけ参加させてもらっています。実際に関わったら、こういうことをしてはるんやっていうのがわかるんですが、いざ地域に帰って、「こんなことしてはるみたいやね」みたいな話をしても、「何それ」って感じで、知らない人があまりにも多くて、私1人盛り上がっててもしょうがないから黙っていた時もあったんですけども。ここへ来てみたら、ヒートアッププロジェクトでもたくさんの人が集まってされている様子なんかも見ていましたし、自分たちも実際にそれを「いくのの日」を宣伝するツールにさせてもらったりしたんですけども、地域の中でご近所さんが集まったときにお話ししたりしても、なかなかそういう話題は通じないというか、わからないっていう感じで、温度差がすごくありました。

前の会議でも報告のあった「生野区グローバルタウン物語」とかっていう言葉も、もうハテナマークが飛び交ってるような具合で、地域ではこの話題はちょっとまだ無理かなと思って、なかなか盛り上がるとかっていうところにはいけないかなと。

まちづくり協議会にしても、私も一応理事にはなっているので、年1回の総会に行くのですが、今年は区役所・まちセンの方などに大変頑張ってもらっていて、6月に総会が開催できるということで、「早いやん」とか言ってたんですけども、いつもは8・9月ぐらいになって「こんな状態で総会大丈夫なの」という中で開催してたのが現状で、田島は、まち協そのものが正直機能していないので、このアウトカム指標91.4%の反対側かなというふうに思います。自律できていないところでもありますので、どのように関わらせていったらいいのかなっていうのはいつも考えてるんですが、1人ではどうにもならないので、ちょっともうひと押し、ご支援いただけるように区役所やまちセンの方と協力してしていこうかなというふうには今思っているところです。

ということで、地域で全く行事をしてないわけではなくって、田島小学校の跡地で防災イベントや花見イベントをしているので、まち協のイベントの中に入れていきたいという話をしても、今まで頑張ってくださっていた町会長さんたちが「花見は花見で今までしてたんや」という感じの答えなので、まち協の事業になかなか持っていくことができない。だから協力し合ってできるところに1年2年かけて持っていきたいなというふうには思っているんですが、まだまだバラバラな状態ですから、須郷さんみたいに熱く語らないといけないのかなというふうに今反省しておりました。

○山納委員

温度差問題という感じですが、さっきのヒートアッププロジェクトというのは、区役所が燃えているっていうんでしょうか、中心が熱くって生野グローバルタウン物語っていうのもそうですね、高いところから持っていったら、地域は温度が低いみたいなことに聞こえましたが、須郷さんのお話は、林寺は林寺が熱いっていうような感じでしょうかね。

どうやって伝えるのかという難しさなのか、どうやったら地域、まち協を熱くできるのかという問いかもしれないですね。そんなことをイメージしながらこれから後の方にもご意見をいただけたらと思います。

平島さんお願いします。

○平島委員

こんばんは。御幸森地区のまちづくり協議会の理事長をやっています。御幸森はいつも4月にさくらまつりから始まりまして、8月に盆踊り、12月にイルミネーションと餅つき大会をやっております。

僕は今、町会長20年目なんですけど、20年前に「盆踊りしませんか」と意見を言ったら、そのときの上の人たちに即行「ないわ」と言われました。もう無理やというのでずっと却下されつつ、12年後に上がだんだんいなくなってきて自分が上の方になってきてしまったので、ここでやれるかなということで、それでも4割強は反対だったんですけどね、とりあえずは多数決で勝ったからやるということで、独断で初めはやりました。だけど、最初何をやっていいのかわからない。提灯が何個いるか、ロープが何メートルいるか、櫓をどうするか、もうゼロから始めましたから、すごく大変でした。それでもだんだん成功していきまして、だんだん形になってきて、皆さんもやり方がわかってきた。

さくらまつりにしても、うちは模擬店とかいっぱい出してますけど、最初の一つ二つだけでした。今は10個ぐらい出してるんですけど、最初一つ二つでも僕が増やせって言っても、増やさない。しんどい、やめようとなる。とりあえずの模擬店といえば「焼きそば」やから、焼きそばの模擬店をやってと言っても、焼きそばもやらないと。ちょっと僕も怒って、独断で1人で勝手にやっていたら、皆さんが急に「私やりますやりますわ」って言うようになって、それで毎年やるたびに一つ一つ僕は模擬店の数を増やしていったんですね。

○山納委員

自分でですか。

○平島委員

そう。何かを提案させていってね。今10種類ぐらいの模擬店をできるようになりましたけどね。というのは、子どもたちが来て、これとこれしかないんじゃないじゃなくて選べるようにしなかったら魅力がないと。昔、僕らが小さい頃は、一條通りの方で、もう端から端までずっと夜店があったんです。今はもうありませんが、

夜店が楽しかったっていうようなイメージがあったので、選択肢を増やさないといけないということで、できる範囲で今はやっていますけどね。このようにだんだんバージョンアップしてきて、だいたい完成形になってきました。

あとは、問題は先ほども言っていたように、若い子がいてないということ。平均年齢70近い人ばかりなので、もうあと何年できるかなというのがあります。盆踊りも結構若い子とか子どもがいっぱい来ているんですが、この子らの親は何で手伝ってくれないのかなっていつも思っているんですけどね。盆踊りはいっぱい人が来てくれます。来てくれたらやっぱり楽しいねっていう思い出を作ってもらって、それで僕は満足しているんですが、楽しいねだけじゃなくて参加型にさせないといけないというのが僕の意見なんですけど、どうしても参加しないですね。今、核家族になりすぎているのか、人との接触は嫌なのか、見には行くけど手伝わないっていうふう風潮というかね。というのが現状です。

だからうちとしても、あと何年できるかなというのが現状になりますね。

○筋原生野区長

私は御幸森第一町会所属で平島委員のところのまちづくり協議会所属なんですけど、平島委員、今年理事長になられて、勝五の地車保存会に参画してもらいましたが、僕は、あれで若い人が非常に入って、その祭りの馬力ですごい活性化したなと思ったんですけど、ちょっとそのことも触れていただけますか。

○平島委員

ちょうど2年ほど前から勝五の長の方と喋って、勝五の人にちょっと手伝ってほしいとお願いしました。それまでうちの町会長は勝五の人だったんですけど、一切無理と言ってずっと断られてたんですけど、勝五の長は「平島さん手伝いますよ」と言ってくれて。手伝ってくれてるのは結構助かってるんですけど、問題もあるんですね。

やっぱり若すぎるというのがありまして。高校生以上になればちょっと理解できるんだけど、やっぱり中学生ぐらいだとちょっと理解できないのと、ちょっとやっといっていたいただいてもやっぱり中途半端に終わっているところが多くて。だから、そのことは勝五にはずっと言ってて、今回でも、「人は選んできてくれ。」と伝えています。机を運んでくれるのとかは、もうめっちゃめっちゃ助かっているんですよ。彼らがいなかったらものすごく大変です。机を運んでくれたり、テント張ってくれたり、その労力がはつきり言って使っていますね。

だから勝五は勝五で、うちを利用してもらって、うちのところでだんじり囃子もできるし、去年は無理やり御幸森小学校にだんじりを持ってきて、盆踊りと一緒にだんじり囃子やってもらいまして、やっぱり迫力がありましたね。

子どもたちも、やっぱりだんじりを目の前で見たら嬉しいと思いますし、活性化になっています。今年もまた呼ぶと思いますけど、先ほど言いましたように、

いっぱい人が来て、いっぱい喜んでくれるんですけど、来年は頼むわっていう人は誰も来てくれない。そこが課題です。

もう一つ、青少年指導員というのが、普通は各連合にいて、うちは9町あるから9人いないといけないんだけどゼロなんですね。青少年指導員がゼロなんていうこと自体がもう結局組織になってないという。先ほど言ったように、もう70前後の人ばかりで、ずっと動かしていますから、やっぱり大変ですね。仕事でもそうなんですけど、仕事はあるけど受け継いで引き続きやってくれる人がいないから、結局廃業をしていかないといけない。そういうのがやはり今の日本の社会の現状ですかね。

○山納委員

盆踊りを12年間我慢して、上の人がどんどん辞めていったタイミングで立ち上げた、屋台を一つ一つ増やしていったという成功のお話と、なかなか若い人が実働部隊として参加していただきにくいという現状の話をいただきました。

廣川さん、お願いいたします。

○廣川委員

こんばんは。何を喋っていいものかなと思う中で、お祭りということと言うと、何のためにお祭りをやってますか、須郷さん。

○山納委員

さっきの話で言うと、顔を合わせたら挨拶をするという関係性をつくるということですか。

○須郷委員

イベントというのは、いろいろな意味ですごく効果的だと思います。平島さんがご苦労されている、若い人は参加してくれるけど、実働部隊としては動いてもらえないという、そこをうまくやれたらいいのにと 생각합니다。行事というのは、すごく影響力が大きいです。

林寺小学校がなくなってアブロードインターナショナルスクール大阪校ができましたけど、その林寺の子どもたちは生野未来学園に行きますよね。そうになると、保護者の顔が見えない。保護者の方々と接する機会がほとんどないんですね。

例えば、あの人なかなかやってくれそうなお父さんやなとか、あのお母さんよく気が利く人やねとかって目をつけて口説いたりできたのが、できなくなってしまった。

それは、PTA活動の中でみんながあの人でもいいんじゃないとかって言ってアタックして組織に繋がっていったのが、今の林寺はそれがないからものすごくやりにくい。今やろうとしてるのは、この秋に遠足をしようとしています。青少年指導員さんが中心になって遠足に行くんですけど、少しでも安く上がるようにアブロードがバスを2台提供するみたいな、そういう地域連携も今で

きているのでいい感じでは進んでいるんですけど。人と人の繋がりが途絶えたらもうアウトというか。でもこれって全国的な傾向ですよ。例えば町会活動にしたって若い人は町会に入らない傾向がありますから、熱心にやられてきた方々はだんだん高齢化していったって、どんどんジリ貧になるようなのが今の実情ですから、そういうのをどうやって活性化していくのか。維持だけでも厳しいと思いますけど。深刻な課題だと思います。

○廣川委員

山納委員の立ち位置取っちゃったみたいな感じになって。

35歳でそこまでは若くもなくなってきましたが、若者代表として言うと、参加はしないだろうなって思います。というのも、なんかピラミッド形がすごく見えてしまっているの。でも、須郷さんのお話だとピラミッドをどう打開するかというところで、主体的な若い子たちが前に立ってっていう、この余白の部分をどう渡すかっていうのが重要なのかなと思います。

失敗ってどういうものかわからないけど、今の自分たちの世代で失敗できないと思い、失敗しないがためにやらない子たちがやっぱり多い中で、祭りとかの方が逆に失敗させてあげられる場なんじゃないのかなと思います。だって地域の活動でしょう。誰かが死ぬわけでもないし、「やってみや」って言ってくれる懐の深い年配の人たちがいたら、すごく楽しい会にもなるんじゃないのかなって思います。それと、純粹に思うのは、やっぱり今は情報量が多くなりすぎていて、エンタメも多いので、天秤にかけたときに、お祭りに出るというようなアクションにならないんだったら、もっと何かその人たちが来たくなるような取組っていうので、盆踊りっていう、お祭りをどう非日常的なものに持ってくるかっていうのがやっぱり大事なかなと思います。

あともう一方で、若い子たちの中にも意識が高いというか、何かやりたい層もいると思っていて、そういう時に熱量のところで動く子たちはいると思うんですけど、その一定層いるところに、なかなかアプローチできていない。そこで活躍というか、何か自分でやってみようと思う層はいると思うんですけどなかなかそこに当たらないというのもあるから、じゃあ少数の人たちがどれだけ継続できるかっていう仕組みを作る方が重要なのかなと。長いことやってたら、やっぱり周知といったところと、あと年間の行事にその人たちが組み込まれていくっていう様子を、いろんなフェスだったりと一緒に作ったりしてきた中で人がどんどん増えていく様を見たら、大体この夏の、この時期にまた始まるなっていう待ち遠しさを感じさせるようなイベントを何か考える。そして、コツコツとやっていくぐらいしかないんじゃないかな。他は、「何かあったらわくわくしますよね。」「こんなん考えてんけどやれへん」みたいなんがあれば。

あと、昔、生野東にあるお店に行ったときに、向かい側に公園があって、その

公園使えたらおもしろいよねっていう話をされていて、この前またお店に行ったら、町会長さんとの関わりの中で、「使っていいよ。その代わり手伝ってな。」ってなったそうで、この流れで今度公園でイベントするねんっていうような話ができているので、上手に話がまとまってないんですけど、そんな風に何か段階をおって、この余白の部分、無のものをどうやって有にしていっていったところが重要なのかなと思います。なんか公園は面白いなとは思っていますね。

○山納委員

では島本委員お願いします。

○島本委員

こんばんは。今、廣川委員もおっしゃっていたんですけども、どうしても高齢化がすごく進んでいて、子どもが少なくて。防災訓練も、今はどうしても高齢者が多く参加しているのですが、もっと若い人にも参加していただきたいということで、「防災訓練」みたいな名前じゃなくて、もう子どもも若い人も、もうちょっと参加できるような楽しいイベント風にやっていったらどうかという話も出ているんですけども、今は難しいところかなと思います。

それと防災面ですと、防犯カメラや防犯灯の設置がやっぱり今あるだけでは少ないとかね、そういう声も上がっているんですけども、どうしても高齢の人が多いいですね。路地というか、道が細いので、そこら辺では割と高齢の人なんかも話し合ったりしているんです。うちの家は猫間川筋なので道を挟んで家が離れてるから、近所作りが少ないのですが、多いところはお互いに植木に水をかけあったりして、割と親密にされています。私は 100 歳体操の当番をしているんですけど、お互いに誘い合って来たりして、新しい人が増えていっているんですよ。だから割と高齢の方は元気に過ごしておられるかなと思うんですけども。

あと多文化共生というか、いろいろな民泊も増えていっている中で、自転車が一、二人でダーッと走ってるなと思ったら、アジア系の若い人が多かったです。お店もどんどんできていて、私も入ってみたいなと思ったりするけれども、やっぱり高齢の人には、脂っこいかなと思ったりして、引いてしまうところがあります。でもいろいろな人が増えているという点では、生野区では令和 6 年度の取組もすごくいろいろされていて、結構人権意識の高まりも広がっているのではないかなと思うのですが、だからもっと私たちもイベントや研修なんかも、参加しやすいような企画ができたらどうかなと思ったりします。

あと子育ての面でも、生野未来学園にみんな結構注目していて、学校内で行事をしたりするんですが、工事があったりしてなかなか行事が進みにくいということがあったりします。本当に子どもたちも増えたので、1 年生もぐっと増えてこれから楽しみなんですけれども、それとともにやっぱり環境整備というのはもうちょっとやって欲しいなと思ったりしています。他の地域から比べる

と、西生野は割とまだ穏やかな地域かなと思います。

ものづくりというところではまだなかなか進んでないところが多いんですけども、またこれから私たちも何かそういう企画があったら参加していきたいなと思います。

○山納委員

島本委員からいただいたのは、例えば防災訓練ではなくて防災イベントみたいな、参加してもらうためのフックのかけ方というか、イベントの作り方・見せ方っていうのもあるのかと思いますし、多文化共生については、実は外国の 사람들이 周りに増えてきていると、そのお店にも行ってみたいけど、ちょっと脂っこいかもしれないという話もありましたが、何か接点がうまく持てるようなことになったらいいなと。生野未来学園もみんなが注目しているというようなお話でしたね。

ですから、いろいろなことは良くなりつつあるかもしれないが、やりようはあるのかもしれないけど、やり方っていうのがどうしていけばいいのかなという問いだったと思います。

では倉本委員お願いします。

○倉本委員

小路地域の倉本です。よろしくお願いします。

小路地域はどちらかというと地域と住人が連携してる方の地域だと思います。行事が多いんです。

あとは、おっしゃっていただいているとおり、まち協の皆さんはすごく高齢化していて、若者が参加しない。だんじりが2個あるので若者がそっちに流れているというのも見えてとれるのですが、何か行事があれば各団体長にまず依頼が来て、その各団体から結構若者が来てくれるという仕組みがもう出来上がってるので、比較的運営はスムーズに進んでいます。でも、設営は町会長だったり、まち協の皆さんが頑張っていただいているので、なかなか大変そうだなっていうのが見てとれます。あとは青少年指導員・青少年福祉委員の皆さんも、なかなか若者が入ってきてくれないのでずっと同じ方がされていてちょっと大変そうだなと感じています。盛り上がっているかどうかといったら盛り上がっている方なのですが、おっしゃっていただいていたように、それをどうやって次の担い手に引き継いでいくかということと、何か他の一緒にやったら楽しいよっていうのをどう見せていったらいいのかなっていうのは、ちょっと行事に参加してる立場としてもすごく感じています。

ただ、地域の同年代の保護者は結構繋がりが強いので、何か町会が困ってたら「一緒にどう？」みたいな声掛けをしてるメンバーも事実いるので、ちょっと少数から人海戦術で声をかけていって増やしていきながら、異年齢で引き継ぎが

できたらいいのかなというのをちょっと感じています。

我々も何かイベントをする時は、必ず連長に先に相談して、多くの方にご協力いただくので、お互いギブアンドテイクというか、何かするんだったらお互い協力して人を出そうよだったりとかができてるので、ありがたい地域だとすごく感じます。

小学校の歴史が長いのと、神社があるのと、だんじりがあるので、一定数みんな行事に慣れているというか、定例行事もあるし、何か突発的に何かイベントをしてもちょっと声かけたらみんな集まりやすい地域なんだとすごく感じています。なので、盛り上げるかどうかという議論をすると、従事者を増やす盛り上げ方を考えたいなっていうのをちょっと感じたりはしていますが、PTA も子供会も声をかけたら来てくれるので、そんなに苦労はしてないというか。ただ、まち協の入れ替わりは急務だなと住人としても感じています。

○山納委員

地域と住民が連携していて、運営は手伝ってくれるけど設営はやはり同じ人みたいなことがあるということでした。もう1回皆さんに軽くコメントをしていただく時間が取れたらと思いますが、一つ僕が話したい好きな話をしようと思います。

「あそびの生まれる場所」と「あそびの生まれる時」というすごく面白い2冊の本を書いている西川正さんという方がいます。ハンズオン埼玉という NPO の理事をやっていて、最近、岡山の真庭市の図書館の館長もやってるという方です。この方はずっと、学童の運営をする NPO にいたり、自分が親として PTA に関わったりしていた方なんですけど、2000 年ぐらいになってから、これまでは親が頑張って、先生たち・学校と一緒に地域を盛り上げてきたっていう感じだったのが、なんか先生がもう自分たちでやるようになって、お客さんみたいに親に接するように変わってきたそうです。PTA で一緒にやってきたけど、一緒にやれない人が増えたからそうなったのかもしれませんが、そうになると親は時間もあるしいろんなことも目に付くのでクレームを言い始めて、だんだんその学校の先生たちと親が離れていったそうです。

それを変えるためにいろいろなことをやっているのが西川さんなのですが、西川さんが提案してやってるものに、「おとうさんのヤキイモタイム」というのがあります。最近「みんなのヤキイモタイム」と呼んでるらしいのですが、10 キロのサツマイモと炭を学校とかに送って、あとはそれを使ってみんなで焼き芋をやってくださいというのをやるんだそうです。それで地域のコミュニティ・繋がりを作ってくださいということをやろうと思いますが、うまいく焼き芋とうましくない焼き芋があって、それは何なのかっていうのが、見てるとだんだんわかってきたそうです。

例えば9時から炭に火をつけて焼き芋ホイルにくるんでみたいなことを段取りして、11時に来てくださいっていうのをやると駄目なんですって。みんなお客さんとしてやってきてしまうから。そうではなくて何の準備もせず10時に集まってくださいって人を集めて、そこから、「さあ、みんなで準備するんですよ。」というふうにやると、みんなが仲間、一緒に運営をする人たちになる。本当に些細なことだけど、お客さんにしてしまうやり方をするのか、巻き込んで自分たちの仲間として設営・運営を手伝ってくれる人として動いてもらうやり方をするのかっていう、何かがあるんだそうです。その機微みたいなものがわかってくると、10キロのお芋と炭を送るだけでコミュニティができる。そういうことをおっしゃっていたのを思い出しました。

盆踊りは規模が変わってくるけれども、どうやったらお客さんにしない運営ができるのかっていうのは一つテーマとして考えてもいいのかなと伺っていて思いました。

ということで、2巡目。今まで喋っていただいたことの感想・コメントでもいいですし、これも言いたいっていう話をしていただいてもいいと思いますが、須郷さんいかがでしょうか？

○須郷委員

皆さんの意見も伺っていて私自身も感じている、世代交代がうまくいかないというのをどうやるかですよね。そこが課題です。私は今、町会長もしていますが若い人たちは町会に入らない傾向があります。

年配の方はだんだん歳を取って離れていくから尻すぼみになってしまうんですが、新しく引っ越して来られた方が何軒かあるので、そのお宅を訪ねて丁寧に説明をして今大体入っていただいているので、少しずつですが町会の加入者は増えてきています。なので、とりあえず粘り強く根気よくやっていくという感じですね。

それと役員が何人かいらっしゃいますが、役員LINEで繋げて、常に私の思いを発信しています。今こういうことを考えてる、こういうことをしようと思うとか、毎月1回掃除をするんですが、「次の日曜日よろしくお願いしますね」とかも。なんせ私はアブロードに勤務してるので、アブロードの話であるとか、今日だったら区政会議でこんな事を話しましたとか、とりあえず情報を発信するようにしています。聞く聞かない、見る見ないは置いておいて、とりあえず私の方からどんどん投げかけて、何かあったらお声掛けくださいって言ったら、戻ってくる時があるので、その時にまたやり取りするような、できるだけコミュニケーションを取るような形にしています。それと回覧板がありますが、今までは回覧板が来ると班長さんに渡して回っていただけでしたが、私は必ず班長さんに「今回はこういう回覧をするのでお願いします」というメッセージをつけます。いつ

何の回覧を発信したかが班長さんにもわかるようにしてあげて、そういうコミュニケーションというのか、回覧も月に1回は、先月こうでした、今月こういうイベントがありますなど、今町会ではこういう動きになっていますよっていう情報も入れて会長メッセージをつけます。一軒一軒回るわけにいかないの、とりあえずそれぐらいしか接点がないわけですから。回覧って見ているか見ていないかわからないと言う方もいらっしゃると思いますが、見てくれる可能性があるわけですから、使える方法は有効に使おうという思いで、とりあえずそんな感じで2年目を迎えてやっています。1年目を振り返って、少しイベントの参加者が増えてきたりしていて、ちょっとずついい傾向が出てきているので、もう1年頑張ってみて、また良い報告ができればと思っています。

○中村（寛）委員

先ほどのお話の中で島本委員が言っていたみたいに、自転車は何台か信号待ちで停まって待ってるなと思ったら外国人の若い子たちっていう風景が急に増えてきたなど、この1年特に感じるどころでした。どのあたりにたくさん住まれているのか、またその人たちは町会には入っているのか。留学生とかは入りませんよね。

○須郷委員

外国人の方が引っ越しされてきて、町会に入ることはあります。

○中村（寛）委員

多くなったというのは感じているんですが、よく見かける割には私の近くには多分住んでいないんだろと思う程度なので。一軒家を建てて引っ越して来られたような方は、できるだけ声をかけて町会に入ってもらっているんですが。あと廣川委員が言っていたピラミッドが見えてしまうというのは、やっぱり組織に入りたいくないという感じなんですかね。

○廣川委員

意見が通りにくそうだなという雰囲気がある。

○中村（寛）委員

うちと一緒にすよね。若い人は若い人で何かやっているけど、まち協の行事には、一緒にしたくないと思ってる人がいるという感じ。ちゃんと筋を通したら、まち協というか、連合も一緒になってできるはずのことが、それぞれ勝手にやっている状態で協力し合えていないというのが現状だと私は思っています。

勝手にしろと言われたのか、ちゃんと筋を通していなかったのか、どこに話を持っていったらいいのかわかっているはずの人でも、勝手にやっているというのがあるので、できたら一つにまとめたいなど。それと、参加してくれる人も増やしたいし、みんなで従事しながら作り上げていくっていうのを、PTAをしてるときからずっとそういう感じでできてたつもりだったんですが、実際何年か

経てみたら、そういう形がちょっとなくなってしまう感じがあるので、どこかで変えていきたいなと思っています。意見が通りにくいとか、組織っていうのに抵抗がある人がいるのか。また、町会とかに所属しないで住んでいる人たちは何かイベントがあれば来てくれるけど、その人たちを巻き込む方法っていうのも、こちら側もなかなかつかみきれないのかなと思っています。

○平島委員

1時間ぐらい喋りたいんだけど、時間がないので。先ほど言っていたように、うちでも外国人の方がいっぱいいるんだけど、怖いから「町会に入ってくれ」とはよう言いに行かんわと言われる。「入ってくれないと困るやん」って言っても、やっぱり怖いから行かへんとかそういうのはいっぱいあって、結局学校の人がいっぱい来ているんですが、日本語喋れるかわからないから余計怖いと。そういうのがあって町会に入ってほしいと言うこともできないところもたくさんありますね。

それと、先ほどの盆踊りの話ですけど、僕がやり始めた8年ぐらい前ですかね、うちの御幸森では45年間盆踊りをやっていなかったんです。

僕はあるときのチラシに「45年ぶりに復活」というタイトルをつけて盆踊りを始めたんですけど、それっていうのは、僕らが小さい時は子供会があって、その親も参加していたけど、そういう子どもから急に20歳ぐらいなってきた、その間に活動を何もしていないので、結局大人になっても地域の活動をしないというのが僕の考え方なんでね。それで僕は、今の小学生・中学生ぐらいの子に盆踊りや餅つき大会に来てもらって、この子たちが大人になったときに、あれよかったなという思い出があって参加してくれることを長いスパンで今考えているんですけどね。思い出で終わるかもわかりませんが、これはもう結果論でして。だから僕のモットーとしては、そういうふうに子どもが喜ぶ顔を見るのが楽しみでやってるんですけどね。

コロナの時、生野区でイベントが全部中止になった時に、御幸森は一切中止しなかったんです。なぜかというと、予算を返さないといけないのがどうしても嫌で、無理やり花火大会をしたり、何かしらしていたんです。コロナがちょっと収束気味の時は、花火大会だけやったんですけど、子どもたちが急に10人ぐらいずっと運動場を走り回っているんです。「いや、子どもいっぱいいるやんか」って思って。何が目的で走っているのかわからないけど、子どもたちはすごく楽しそう。今までコロナでどこも行けなかったのが走り回れたのが良かったのかもしれないけどね。その時に、知り合いのお母さんが涙を流して「こんなイベントやってくれてありがとう」と言ってくれて、これはやってよかったというのが僕の気持ちです。なんかそういう気持ちが1人でも2人でも出てきて、将来的に活動に参加してくれたらいいなという希望だけで一応やっています。

○廣川委員

何かソフトな内容を継続するのが重要なのかなと。例えばみんなでごみ拾いなどの社会活動をしながらか、その最中に上下の会話が生まれたりする。自分よりも年上・年下との会話が生まれてっていう。そのあとにみんなで焚き火をしたりする会があればすごく面白いっていうか。実際、関東の方で「Cleanup& Coffee Club」っていうのがあって、社会的なアクションってすごく会話が生まれやすいし、初めて会う人たちのコミュニケーションが取りやすくて、最後終わった後にコーヒーを飲みながら、また次やろうぜみたいな感じになるそうです。

ただ、こういう場にも参加を促すのが難しい中で、はじめに祭りや盆踊りをやろうっていう、ここ発信だと厳しいから、何かソフトな内容を挟んでいって、そこに対して集まるような、柔らかい形のアクションを続けるというのがすごくいいのかな。さっき焼き芋という話があったので、区役所の前でちょっと焚き火したいなと思いました。すごくなんか合理的になりすぎている中で、焚き火とか何か囲んで話すと、何か情緒的なタイミングが作れるからすごくいいなと思いました。

あと、思い切って手放してみるっていうのがすごくいいのかなと。極端に言えば、もう櫓だけ立てて、「困ってるねん」と若い人たちに仲間集めて何かちょっと助けてくれぐらいのアクションの方が、なんかやる気を持ってやんちゃな子たちが集まるんじゃないかなって少し思いました。

あと、運営方針の経営課題「安全・安心を身近に感じて暮らせるまち：多文化共生編」を見たら、区内の20代の外国籍人口はすごく多くて、ここの層に何かアプローチできたらすごく面白いのになって。ここの架け橋のところが生野のオリジナリティを生めそうな気がして、何十年かけてやっていくタイミングがもう来てるんじゃないのかなって少し思いました。

○島本委員

民泊がどんどん増えていって、どうしても子どもたちや若者が結構少なくなっているって、マンションとか民泊も増えて、町会に入ってくれる人が少なくなっているんです。うちの町会でも10軒くらい新しい一軒家が建ったけど、町会に入ってもらえたのは半分だけです。昔みたいに町会に入ろうという意識の人は、若い人にはまだ少ないかなと思うんです。

それと共働きの世帯も増えて、学校が終わったら塾とか習い事で埋め尽くされていて、なかなか子ども同士の関わりも少ないと感じるので、その辺はどうしていったらいいものかなと考えています。遊ぶとなったら子ども同士で調整もしないといけないので、昔みたいに一緒に集って遊ぶことがなかなか難しい状況になっていると思うんです。

そして、毎月広報紙なんかを見ていたら、本当に妊産婦や子育てのきめ細かい

支援をされているなと思っています。それがすごい成果だなと思うんですが、子どもが順調に育っていく面では、これからの未来にちょっとまだ不安を覚えるんですよ。

あと、外国籍の人が多くなっていて、自転車に乗っている人も多いんですが、来年4月から自転車に対する法律がかなり厳しくなりますよね。外国籍の人たちにも、その辺の情報が行き渡るようにしていってほしいなと思っています。

○倉本委員

すごい実務的なお話になるんですが、何か催しをしていて、鉄パイプ製のテントを立てること・たたむことができない若い方が非常に増えているのですが、まち協とか社協の皆さまは「お前こんなことも知らんのか」的な空気を出されるんです。それで結構気を遣われるというか、ちょっと参加しづらい空気が出てるのも事実だなと感じています。なので我々の団体は簡単なものに少しずつ変えていて、若いお父さんでもテントを出したり、たたんだりできる環境を作ることは比較的若い方が参加しやすくなるようなフックにはなると感じてます。ただ教えてもらうこともすごく大事なので、餅つきとかだと、まず、お米を蒸すことから教えてもらわないと我々にはできないので、そういった空気を払拭できるような環境整備というの何かできたらいいのかなと思います。お金がかかることなので簡単には買えませんし、テントがない地域もたくさんあるので、貸してもらえるんだったら鉄パイプのやつでもやっぱり使わないと駄目ですし。ただそういったことで遠慮してる保護者もいたなと、ふと思い出しました。やっぱり慣れてる人でさっさとやってしまうから、「邪魔したらあかん」となってしまうことを見たり聞いたり今でもするので。道具をちょっとずつ変えていくと若い方も参加しやすくなったりするのかなと思います。逆に、催しで音楽が欲しい時に、パソコンやタブレットがあれば若い方が流してくださっていたりするので、お互いできることでそういった協力体制が作れたら、参加型になっていくのかなとちょっと感じたりしています。

○山納委員

2巡でずいぶんいろいろなお話を聞かせていただいて楽しかったです。

ちょっと時間オーバーしたかもしれません。ということでマイクを廣川さんに返したいと思います。

○廣川委員

山納委員ありがとうございました。

それでは続きまして、議題2「区政に関する意見交換会の開催について」ということで事務局からご説明をお願いします。

○金田企画総務課長代理

参考資料1の10ページもしくは前方のスクリーンをご覧ください。

昨年度も実施させていただいた意見交換会ですが、今年度はこれからの未来を担う若い世代に災害に対する意識を高めていただくため、自由かつ柔軟な発想や意見を聴収し、今後の行政としての施策、事業展開を検討することが重要と考えており、意見交換を開催したいと考えております。

対象者は現在のジュニア災害リーダーとしました。開催時期は学生であることを鑑み、夏休みに実施する予定としております。

事務局からは以上になります。

○廣川委員

ありがとうございました。

ぜひ若い世代の方々の自由かつ柔軟な発想や意見を聞いていただいて、施策・事業に生かしていただければと思います。

それでは最後に、議事3その他について事務局から報告事項などについてお願いします。

○森区政推進担当課長

委員の皆さまお疲れ様でした。

それでは議事3について、事務局から報告とお知らせをさせていただきます。

まず一点目の報告ですが、お手元の資料2「区民わがこと SDGs」のゴール選定についてご説明させていただきます。

○金田企画総務課長代理

大阪・関西万博の開催を迎えた今年度、一つの節目として、各区における「区民わがこと SDGs」の推進についても2030年を見据えて、更なるブラッシュアップを図るべく、区ごとの特性・実情と親和性の高いSDGsゴールに焦点を当てた普及啓発に取り組むこととされております。

つきましては、生野区としてのSDGsゴールの選定を行う必要があることから、SDGs17項目の中から、生野区の基本理念としての「異和共生」の考えにのっとり、10番「人や国の不平等をなくそう」を選定することとします。SDGsのゴール選定に関する説明は以上になります。

○森区政推進担当課長

次に2点目の報告でございます。

お手元の資料3「外国人住民との共生社会実現に向けた調査・検討結果の概要報告」をさせていただきます。

○宮城企画総務課長

企画総務課の宮城と申します。私の方から、昨年度実施した「令和6年度生野区における外国人住民との共生社会実現に向けた調査・施策検討事業」の概要をご報告いたします。失礼ながら着座にて説明させていただきます。

まず「1 調査目的」ですが、生野区では従前から多文化共生のまちの実現を

めざし、様々な事業に取り組む中、多様化・複雑化する外国人住民の課題・支援ニーズを把握し、ともに参画できる地域づくり実現のための支援策や協働による地域コミュニティの創出に向けた政策提言を受けて、必要な施策を実現することを目的に事業者に委託して調査を実施しました。

次に、「2 調査方法」です。量的調査と質的調査の2通りの調査で行いました。令和6年9月末現在で生野区には12万6,629人の住民がおり、うち外国人が2万9,202人で、そのうちの18歳以上の方7,000人を対象にアンケートを実施しました。質的調査は、座談会方式やインタビューを通じて、より深くご意見等を把握したものです。対象は、応募があった外国人住民から抽出をした19名と、地域、企業、医療・福祉、保育・教育等の各分野から選定した21名を対象に実施いたしました。「3 調査結果に基づく施策提言」です。調査の分析結果から施策の提言がなされています。

分析では回答者の「全体」「特別永住者」「特別永住者以外」における課題の特徴を把握し、提言につなげており、9分野33の施策の柱に取りまとめがなされています。

次ページについてはアンケートで使用した質問項目を資料として添付しており、3枚目以降に、9つの分野ごとに調査で明らかになった課題や施策提案の柱の一部について記載をしています。参考までに少しご紹介いたします。

まず5ページです。「A あなたのことについて」という項目の中で、どのような名前を使用して生活をしているかについて特別永住者とそれ以外では結果に違いが見てとれます。調査結果から施策の柱として、多文化共生のまち作りや外国人住民の課題に関する人権研修の拡充が挙げられています。

次に「B ことば」でも特別永住者とそれ以外では日本語の使用に関して顕著な差が見てとれます。施策の柱として日本語教室の開設や母語教室の開設などが挙げられています。

少し飛びまして「E 生活の困りごと・情報」の項目では、特別永住者では高齢化、それ以外では居住の不安定性が課題となっており、ここでも施策の柱として、日本語教室の開設や多言語相談窓口の設置などが挙げられています。

次に少し飛んで「G 差別」の項目です。こちらについては外国ルーツであることを理由に差別を受けたことがあるかという問いです。特別永住者とそれ以外で顕著の差はなく、約半数の方が差別されたことがあるという回答をしており、人権教育や啓発の充実などが施策の柱として挙げられています。

最後に「I 多文化共生のまちづくり」では、特別永住者以外の方のほうが、地域の日本人と交流したいという意向が多いという状況が見てとれて、外国人住民が参加・参画する仕組みの構築などが柱として挙げられています。

以上、調査結果の概要を簡単にご報告いたしましたが、事業者から提出されま

したこの調査結果・施策の提言の内容について、今後精査・検討を進めていく予定です。その上で、課題解消に向けて区役所が主体として取り組むこと、また地域の方々と共同で取り組むことなど施策を展開していきたいと考えています。

○森区政推進担当課長

以上、2点報告とさせていただきます。

なお、本日いただきましたご意見については、6月23日に開催します全体会で部会としての報告をしていただき、他の部会の皆さまにも共有をいただきたいと思います。

部会報告の内容は、事務局にてまずひとまず整理させていただき、本日進行を務めていただきました山納委員と調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。

最後に1点お知らせです。本日、参考資料4として配布しております「委員改選について」をご覧ください。本市の区政会議の委員の任期は条例によりまして1期2年、最大2期4年と定められています。委員の皆さまの任期が一旦本年9月末となっております。つきましては、10月以降の委員の選定について、地域からのご推薦の依頼の手続きを進めているところです。本部会におきましても、このメンバー構成としては本日で終了となることになります。

次に資料の裏面をご覧ください。名簿で網掛けをさせていただいている方々が任期満了の方です。本部会では順に、倉本委員、廣川部会長、そして学識委員である山野委員の3名の方が2期4年で、今期にて任期満了となります。

つきましては、本日ご参加いただきまして任期満了される委員の皆さまには、一言ずつご挨拶いただければと思っております。

まず倉本委員、よろしくお願いいたします。

○倉本委員

2期やらせていただきまして、前回はくらしの安全・安心部会、今回はまちの未来部会と、あと区PTA時代にはこどもの未来部会に参加させていただきおりましたので、約6年となりましたが、楽しく参加させていただきましたけれど、これからも区民として少しでも地域の活性化に繋げる活動ができればと、若い人を一緒に連れて、地域の活動に参加したいなと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

続いて廣川部会長、よろしくお願い致します。

○廣川委員

2年間ありがとうございました。

若者ながら言いたいことを言わせてもらい、ありがたく思っています。何か委

員同士でコミュニケーションがもっと取りやすかったら良かったかなとも思いました。せっかく集まってこうやって2年間過ごしている中で、お互いのことをあまり知らなかったのがちょっと残念かなと。

今後とも生野区を盛り上げていきましょう。おー！

○森区政推進担当課長

ありがとうございます。それでは最後に山納委員よろしくお願いします。

○山納委員

もう4年になるんですね。なかなか名残惜しいなと思っています。

僕は生野区に住んでるわけではなく、外からよそ者として来させていただき、皆さんの意見を聞かせていただけてきました。さきほども、区役所がヒートアップしているのか、区民がヒートアップしているのか、どっちがいいんだろうねというような話もしましたが、例えば今資料3で外国人住民にアンケートを取ったというお話があり、これを踏まえて区役所が施策を考えるというようなお話もありましたが、これを見ていたら何が問題かっていうのはすごく整理していただけていて、これ引き受けて、区民・市民がヒートアップするっていうんでしょうか、こういうことをやったらいいんじゃないのかなっていうことも立ち上げていくっていうことが起こってもいいんじゃないかなと思います。

おそらくどこの自治体を見ても少子高齢化が進んでいき、社会保障費が増えていき、税収が減っていく。どうなっていくかという、行政が支えられる領域がどんどん狭くなっていくんだろうなと思います。そうするともう自分たちで作っていく、自分たちで支えていくというふうに切り替えていかないと、いろいろな自治体が持たなくなってくるなということを考えています。

そこで大事なのは、須郷さんのような人がヒートアップするっていう、地域がこう熱くなっていく、地域で支えていく、そんな地域をどうやったら作れるんだろうということを考えていて、その意味で、この4年間非常に貴重な現場を見せていただいたと感謝しております。生野区がますますヒートアップしていくことを期待してやみません。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。委員の皆さん、生野区の今後のためにたくさんのご意見を頂戴しまして本当にありがとうございました。お疲れ様でした。

事務局からの報告は以上となりますが、冒頭でも申し上げました通り、本日、アンケートをお配りしており、お帰りの際に出口で回収をさせていただきますので、ご記入のご協力をよろしくお願いします。

○廣川委員

それでは本日の会議を踏まえまして、筋原区長から一言お願いします。

○筋原生野区長

皆さん長時間本当にありがとうございました。今回退任をされる3人の委員さんにも本当にお世話になり、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

山納委員が今おっしゃいました、誰がヒートアップするのかということで、自分の実感として、まちが変わるにはやっぱり熱量がいると思うんですよね。まちがヒートアップしないと絶対変わっていかないので、ヒートアッププロジェクトという名前を付けたわけですが、そのためにはまず区役所が熱くならないと始まらないし、また区役所から熱くなって行って、それがどこまで広がっていったくれるかというようなことも考えています。それで今日も本当に貴重な、いろいろなお話をいただきました。

最近で言うと、小路の清見原神社というところで、30代ぐらいの若い人たちが中心になって、ものづくりも飲食も地域の方も一緒になった「神社マルシェ」というお祭りを今年も2回目やりました。非常に盛り上がって、見ていてとてもいいなと思ったのは、地域の防犯支部でかなり高齢世代の方々も、一緒になって警備とか、参加してやっていただいていたことです。これが一つ印象的でした。これは、伝統と歴史のある神社という場の力も大きいような気がした一方で、昔からの盆踊りや地域のお祭りで、平島委員がおっしゃったように、若いお母さんが涙を流してお礼を伝えてきたという、こういう心を動かされる要素というか、1人1人がしみじみとやってよかったなっていう感動を持てる要素というのが、本当に地域の行事の原点なのかなと思いました。

いろいろな若い方の活動もあり、昔ながらの伝統の活動もあって、面白さのジャンルはそれぞれ違うと思うので、無理に一緒にする必要はないんですが、1人1人がしみじみとやってよかったなっていう要素は一緒だと思いますし、それがやはり共通項になると思います。その共通項を作るのは場の力であったり、だんじりみたいなすごい熱量とか華やかさであったりとか、いろいろあると思いますが、そういう共通項をどうやって作っていくのが大切だと思います。

皆さまの意見でいろいろな学びをいただきましたので感謝申し上げます。本日もありがとうございました。

○廣川委員

ありがとうございました。

こちらのメンバーでの会議は本日で最後です。皆さま、円滑な運営にご協力いただきまして感謝申し上げます。

区政会議は、生野区の将来について、区民同士が率直に情報交換し、意見を語り合える場です。令和7年6月23日には全体会の開催が予定されておりますのでよろしくお願いします。

それではこれにてまちの未来部会を終了します。皆さまお疲れ様でした。